



「つづき あい通信」は、都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」※を推進する地域の取組や、関連情報を紹介する計画情報紙です。

※裏表紙に詳細を説明しています

今号の内容

今年2月に開催した第3期都筑区地域福祉保健計画活動発表会「つづき あいフォーラム」。

今回は当日発表された、区内の様々な場所で行われている地域の活動や中学校区における取組を掲載しています。目からウロコな事例や地域活動お役立ち情報が詰まっていますので、ぜひ中面をご覧ください。



つづき あい 計画

第3期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」活動発表会

つづき あいフォーラム 報告書

★平成29年2月18日 都筑公会堂にて★



あいちちゃんも
来ました！





つづき あい計画

平成28年度

「つづき あいフォーラム」を開催しました

平成29年2月18日、都筑公会堂で「つづき あいフォーラム」(第3期都筑区地域福祉保健計画活動発表会)を開催しました。今回は2つの地区(東山田地区・都田地区)から地区別計画を推進する取組の発表と、中学生を含む地域の方から「子ども・青少年分野」の取組についての発表をしていただきました。それぞれ発表の最後には、コーディネーターの豊田宗広先生(聖徳大学心理・福祉学部)から活動へのあたたかいメッセージをいただきましたので、ご紹介します。



地区別計画推進についての発表

東山田地区の取組報告(要旨)

- 地区社会福祉協議会で地区別計画のために使うことのできる予算を確保し、必要時すぐに活動の実践につなげられるようにしました。
- ラジオ体操普及推進のため、まずは連合町内会の役員自ら会合の冒頭で実践、その後町内会全体に広めています。さらに地域で体操とセットになった「お茶飲みとおしゃべりの場」を開設しました。
- 地域活動に携わる方に地区社会福祉協議会とは何かを知ってもらうためのマニュアル「さわやか東山田の手引き」を作成しました。



東山田地区社会福祉協議会会長
佐藤輝久男さん

【豊田先生からのコメント】

活動費が確保されていることは、取組の実効性を高めるために重要です。また、役員の方が率先して取組を実践することで、地域の方々に活動が見え、浸透しやすくなります。マニュアルがあることで、人が変わっても自分たちの取組や目指すものを継承・共有できるので、素晴らしいです。



都田地区の取組報告(要旨)

- 地区別計画の推進のため、「健康づくり」「見守り・支えあい」「子ども」の各分野ごとに話し合いの場を設け、取組を実践。
- 健康づくり分野では、食と運動に着目し、地元野菜を使ったレシピを作成。また、地域のイベントで健康チェック(血圧や足指力測定等)を実施しました。
- 災害時、避難所にどのような人が集まるのかを地域で共有できるように、地域にある15の社会福祉施設に声をかけて話し合いの場を設け、つながりの輪をひろげることができました。
- 子育てサロンを町内会館で輪番開催することで、より多くの人に参加しやすいように工夫するなど、地域全体で子育て支援に取り組みました。



都田地区社会福祉協議会事務局長
齋藤隆夫さん



地元野菜
(小松菜)を
使ったもち

【豊田先生からのコメント】

人が集まる場を活用しての健康づくりの取組は、工夫がみられます。また、社会福祉施設の方からは「地域の人とつながりたいけれど、きっかけがない」という声をよく聞きます。地域から声をかけたことは、施設の方には心強かつたのではないのでしょうか。先を見据えた活動ができています。



区計画(子ども・青少年分野)についての発表

茅ヶ崎中学校区の取組報告(要旨)

家庭・地域・学校の連携を強化するため、子どもとその親・地域の方々が参加できる「わくわく広場」を開催しました。当日は地域の方が扮したキャラクター「ちがさきじん」が持つスタンプを集めて景品を貰うなど、イベントを通じたふれあいの機会となりました。まさに、地域の人とのつながりを深められる良いきっかけとなりました。



茅ヶ崎中学校の竹内静香さんと江部ありさん、
元中学校区モデル事業協議会会長の足立亜矢子さん

【豊田先生からのコメント】

子どもたちが地域の人とのつながりを持つことができた貴重な取組ですね。中学生は大人との話し合いもできるようになってきている年齢でもあり、とても良い取組となりました。



区・区社会福祉協議会・地域ケアプラザからの発信

住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためのまちづくりである「地域包括ケアシステム」について説明しました。住民の平均年齢が若い都筑区においては、特に介護予防の取組が重要であり、また、ささえあえる地域づくりのために地域福祉保健計画の取組を深めることが、地域包括ケアシステムにもつながります。

豊田先生より

地域包括ケアシステムの一番大きな目的は、高齢者だけではなく、子どもや障害者など地域で生活するすべての人が安心して生活できるというシステムを作ることです。

地域包括ケアシステムは、公的なサービスと地域の皆さんの取組とが一体化して実践されるものですが、最終的に公的なサービスにつながるにしても、その前段階でいかに地域の中で健康的に過ごせる取組があるかが重要です。また、地域の特性がある中で、皆さんの生活に合った取組が実り多くなっていくことも必要です。今、皆さんが取り組んでいることは、皆さん自身に返ってくるものなので、ぜひ活動を続けていってほしいと思います。

地域福祉保健計画において、横浜市のように地区ごとに計画を立てて取組を進めている地区はほとんどありません。誰かがやってくれるだろうではなく、自分たちでどこまでできるかをきちんと把握し、活動を地域の方に見えるように進めていくことが重要です。

いろいろな世代のいろいろな方々が活動に関わることで、課題の解決につながります。皆さんが今取り組んでいることは非常に大きな意味を持つものなので、自信をもって取組を進めていってください。



コーディネーターの豊田宗広先生
(聖徳大学心理・福祉学部)

つづき あいフォーラムと同時開催しました

パネル展

つづき あいフォーラムの開催に合わせ、その前後の約2週間にわたり、区役所1階区民ホールにおいて、地域福祉保健計画を推進する取組を紹介するパネル展を実施しました。

各地区連合・地区社協エリアにおける地区別計画や区計画の様々な分野(子ども・高齢者・障害者・健康づくり)、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会が支援している取組の紹介もありました。

平成29年度も実施する予定(平成30年2月頃)ですので、ぜひご期待ください。



都筑区総合庁舎1階にある都筑図書館の一角で、区福祉保健課と都筑図書館との共同企画「つづき あい」展を開催しました。図書館を訪れる方に向けて、地域福祉保健計画の推進に役立つ地域活動・ボランティア・青少年育成活動・障害児教育といった様々なテーマの図書の紹介を行いました。これらの図書との出会いから活動のヒントが見つかった方もいるかもしれません。

つづき あい展

都筑区地域福祉保健計画とは？

基本理念

人と人との
「**であい ささえあい わかちあい**」

目指す姿

「**であいが広まり、お互いに
ささえあい、地域がもつ力を
わかちあえる地域づくり**」を
目指していきます。

社会福祉法において、市町村が「地域福祉計画」を定めることとなっています。

横浜市では、「福祉」と「保健」は誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちを作るという目指す姿が同じであり、また、一体的に推進することが幅広い市民参加につながることから、「地域福祉保健計画」としています。

地域福祉保健計画は、地域における課題解決に向けて、区民、事業者、行政が協働で取り組む計画です。